

## 西濃農林事務所の普及活動状況

平成24年7月27日現在

### 活力ある新産地づくり

#### ■ブロッコリー JAにしみのブロッコリー生産協議会の総会開催

7月3日に、JAにしみのブロッコリー生産協議会総会が開催され、今年の作付面積は22.7ha(前年比102%)とする計画で、1～2月の出荷量を増やす方針が確認された。

農業普及課から、昨年の生産実績を踏まえ、定植時期、品種別の収量等について説明し、今年度の生産性向上のための改善策を提案した。

また、6月25日に大垣部会育苗研修会、7月18日に不破部会栽培研修会が開催されており、地域ごとの課題解決についても支援している。

### 売れる農畜産物づくり

#### ■水稲 水稲の適期収穫に向けて

水稲の出穂期は、あきたこまちは平年並みの7月8～19日となったが、5月中旬以降の低温傾向により、それ以外の品種は遅れており、コシヒカリは3～5日遅れの7月末～8月上旬が出穂ピークとなる見込みである。

7月23日に、JA水稲共同乾燥施設稼働打合せ会議が開催され、農業普及課からは、ハツシモを中心とした水稲適期収穫の留意点について説明しており、今後は地域ごとの荷受計画作成など、適期収穫について支援していくこととしている。

#### ■大豆 大豆播種は遅れめ

大豆の播種は、6月26日に海津市で始まったが、その後の短い間隔での降雨により作業が進まず、7月17日の梅雨明けを待ってようやく本格化している。今後の天候にもよるが、ほぼ7月中には終了すると見られる。

播種後の降雨により、発芽不良になっているほ場も一部で見られるため、排水溝の補修や播き直し等、初期生育の確保について支援することとしている。

#### ■トマト 平成24年産JAにしみの海津トマト部会販売反省会

6月29日に、平成24年産の販売反省会が開催された。6月上旬まで、出荷量は926,000ケース(前年比91%)と減少したが、販売額13億4千万円(前年比126%)、ケース単価1,447円(前年比138%)となり、最終で14億円以上と過去最高の販売実績となる見込み。

農業普及課では、今後とも栽培技術改善等の取り組みを進めていくこととしており、トマト部会青年部と農協が中心に行う平成25年産の土壌分析についても支援している。7月9日は長段・抑制栽培ほ場、18日は促成栽培ほ場を主体に行っており、今後、分析結果を基に、ほ場ごとに施肥計画を作成し、7月24日～27日に1回目の施肥計画面談を行う計画である。

#### ■きゅうり 黄化えそ病対策

7月18日に、きゅうり黄化えそ病対策チーム(農産園芸課、農業経営課、農業技術センター、病虫害防除所、西濃農林事務所)により、栽培終了後の土壌消毒状況調査と施設周辺及び雑草内の害虫生息調査を行い、8月からの抑制栽培の病害対策について検討を行った。

#### ■いちご 育苗管理を支援

親株からの切り離し作業が行われ、育苗も後半戦に突入している。巡回指導及び各地域の研修会において、子苗の適正施肥の実施や炭そ病の定期防除について指導している。7月17日に炭そ病を初確認したが、例年よりも発生は少ない。

## ■甘長ピーマン 病虫害対策を指導

甘長ピーマンの出荷はハウス栽培を中心に順調に推移するものの、7月に入りハダニとうどんこ病の発生が増加しているため、病虫害対策について巡回指導を行うとともに、各出荷場に注意喚起の掲示を行い、被害防止を図った。

## ■千石豆 初出荷が始まる

海津枝豆部会員を中心に今年から千石豆の研究会が立ち上がり、7月に市場関係者と出荷基準を確認したうえで出荷が始まっている。農業普及課では、さやを食害するアザミウマ等の害虫対策の指導を行い、被害防止による品質向上を支援している。

## ■柿 摘果講習会の開催

7月17日に養老町果樹振興会、19日に南濃町果樹振興会で、摘果講習会を実施した。

農業普及課から、摘果の方法、カメムシが多いので基幹防除を徹底すること、梅雨時の排水対策、盛夏間伐時のかん水、袋掛け栽培の方法、極細テグスによるカラス対策等について説明した。



【摘果講習会(養老町)】

## ■バラ 現地研修会の開催

6月23日に、神戸町バラ生産組合による現地研修会が開催され、農業普及課が月1回養液分析を行っている各ほ場を生産者全員で巡回した。

バラの生育状況や病虫害の発生状況を確認するとともに、農業普及課及び農業技術センター担当者から、ほ場管理のポイントについて助言・支援を行った。



【ほ場巡回の様子】

## 戦略的な流通・販売

### ■露地野菜 加工・業務用キャベツ栽培研修会の開催

7月20日に、養老町で加工・業務用キャベツ栽培研修会が開催され、農業普及課から、昨年の反省点を踏まえ、栽培のポイント等について説明するとともに、栽培に当たっての心構えを再確認した。今年から、新たに1営農組織が取り組み、生産者数は5名、栽培予定面積は約1.6haとなる見込みで、10a単収5tを目指し、82tの出荷を計画している。

## 多様な担い手の育成・確保

### ■女性農業経営アドバイザー 広報誌編集・視察研修支援

西濃ブロックが作成を担当している、GLAMA広報誌の編集会議が6月28日、7月6日、10日の3回開催され、農業普及課は誌面構成について支援した。

7月19日には、西濃ブロック活動の一環として、名古屋植物防疫所の視察研修が行われ、実施を支援した。輸入農産物の実態について研修し、国産農産物の重要性を認識し、農村女性として、さらに安全安心な農産物生産の意欲が高まった。

## 魅力ある農村づくり

### ■鳥獣害対策 上石津のトレイルカメラ設置支援

7月23日に、岐阜大学野生動物管理学研究室が、大垣市上石津町打上地内の柵の張り巡らされた水田に侵入する鹿等の行動を観察するため、トレイルカメラ(自動動画撮影機)設置し、農業普及課は設置個所の選定について支援を行った。撮影された映像は、集落ぐるみで獣害対策を行う地域において、獣害対策を考える貴重な提供資料となる。